当院における呼吸ケアサポートチーム（RST）の活動について

岡本 竜哉、石田 あかね、田根 志帆、伊藤 響、椎名 弥生、藤井 美幸、下尾 菜摘
米廣 由紀、水田 由希子、早川 祥子、五十嵐 恵、石井 遥子、滝澤 祐子、小林 優美
大矢 珠美、高橋 宏幸、松﨑 春希、能智 悠史、三浦 衣よ子、斉藤 南歩、石塚 幸太
楢村 卓也、部田 健人、勝岡 陽和、横田 彩乃、甲斐 崇斗、櫻井 裕介、横関 萌、松本 侑奈
小川 竜徳、深谷 隆史、藤谷 順子、丸岡 豊、浅野 裕美子、廣井 透雄

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 呼吸ケアサポートチーム

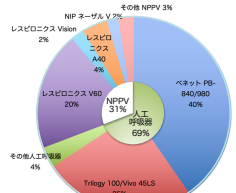
内容要約

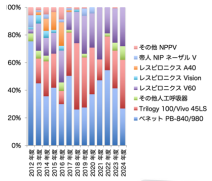
- 多職種連携医療が重視されるようになり、人工呼吸管理の安全性を高めることを目的として呼吸ケアサポートチーム（Respiratory care Support Team, RST）の活動を 2012 年 11 月より開始し、院内の人工呼吸器装着全症例（装着後 48 時間以上、1 ヶ月を超えない症例）を対象として、ラウンドと症例検討会、さらに勉強会・技術講習会を行っている。
- 2025 年 1 月までにのべ 1592 件（653 症例）のラウンドを行った。診療科内訳としては、呼吸器内科（Ⅱ型呼吸不全等）、外科（術後低栄養・廃用等）、脳神経外科（抜管困難例等）、循環器内科（慢性心不全等）であった。加算対象外であっても離脱困難例に対してはラウンドを行っている。助言の内容は、原疾患や呼吸器設定（医師）、アラームや生体情報モニターの設定、気管チューブ管理、鎮静・体位、その他医療安全管理（看護師）、呼吸器・加温加湿器の安全管理や呼吸器の換気動作（臨床工学技士）、呼吸リハビリテーション（理学療法士）、口腔ケア（歯科医師）等である。

RST ラウンドの様子

医師）呼吸器の設定、呼吸器の原疾患、ウィーニング・離脱に向けたアセスメント、総括
看護師）アラーム・生体情報モニターの設定、チューブ管理、鎮静・体位、医療安全管理
臨床工学技士）呼吸器・加温加湿器の安全管理や呼吸器の換気動作の確認
理学療法士）体位ドレナージ、拘縮予防、呼吸リハビリテーション、歯科医師）口腔ケア

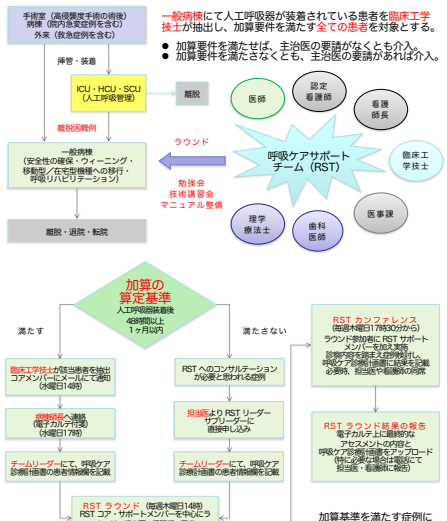
RST ラウンド対象症例の呼吸器機種 (2012/11 ～ 2025/01)



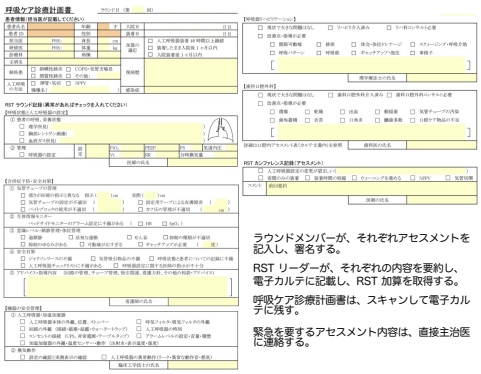


① 人工呼吸器が 69%、NPPV が 31% であった。
② NPPV の割合は 2016 年度までは増加していたが、2017 年度以降は 30% 代で横ばいである。
③ トリロジーの使用中止に伴い、チェスト Vivo 45LS が普及しつつある。

当院の呼吸ケアサポートチーム活動の流れ



呼吸ケア診療計画書



ラウンドメンバーが、それぞれアセスメントを記入し、署名する。

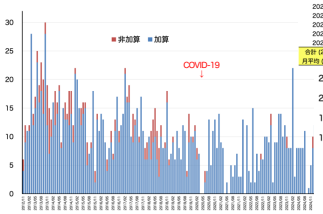
RST リーダーが、それぞれの内容を要約し、電子カルテに記載し、RST 加算を取得する。

呼吸ケア診療計画書は、スキャンして電子カルテに残す。

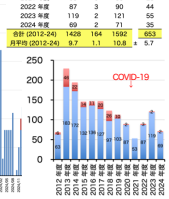
緊急を要するアセスメント内容は、直接主治医に連絡する。

RST ラウンドの件数 (2012/11 ～ 2025/01)

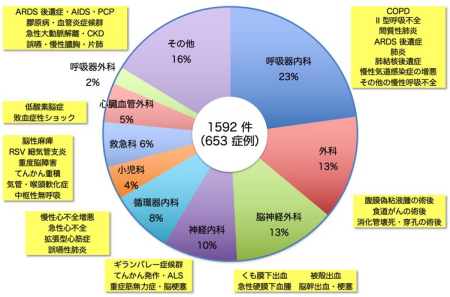
2012 年 11 月～2025 年 1 月までに、のべ 1592 件（653 症例）のラウンドを行った。月平均ラウンド数は 10.8 ± 5.7 件であった。



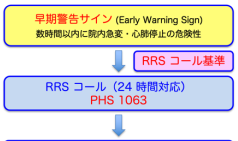
	加算	非加算	合計	実人数
2012 年度	63	6	69	30
2013 年度	183	46	229	81
2014 年度	172	22	194	78
2015 年度	132	14	146	59
2016 年度	136	11	147	64
2017 年度	127	20	147	53
2018 年度	97	26	123	41
2019 年度	103	10	113	44
2020 年度	87	2	89	41
2021 年度	53	0	53	28
2022 年度	87	3	90	44
2023 年度	119	2	121	55
2024 年度	69	2	71	35
合計 (2012-24)	1428	164	1592	653
月平均 (2012-24)	9.7	1.1	10.8 ±	5.7

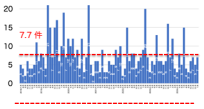


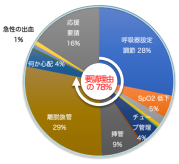
RST ラウンド対象症例の診療科内訳 (2012/11 ～ 2025/01)



RRS (Rapid Response System) (2012/11 ～ 2025/01)





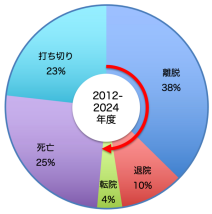


考察と結論

当施設の RST の主な活動内容と転帰を下記に示す。

1） 強制介入型 RST ラウンド（リハ科・歯科との連携）
2） 様々な呼吸器関連の相談
3） 人工呼吸に関連した院内教育
4） 医療安全委員会との連携
5） 呼吸療法管理マニュアルの作成・更新

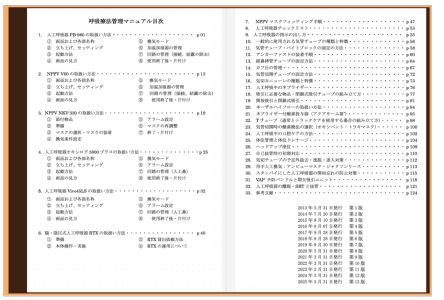
主治医の要請に基づかない介入であるため、ラウンドのアセスメントが実施されないことも多い。
しかし、活動も 13 年目を迎え、院内教育および医療安全の観点から一定の評価を得ている。



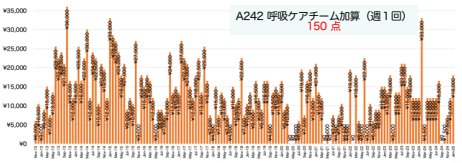
RST 勉強会（月 1 回定期開催）

実施予定月	内容	担当者
5 月	酸素療法	臨床工学技士長 深谷
6 月	人工呼吸器 1（呼吸生理・モード）	RST リーダー 集中治療科長 岡本
7 月	ネーザルハイフロー	急性・重症患者看護専門看護師 下尾
8 月	人工呼吸器 2（ウィーニング・離脱）	RST リーダー 集中治療科長 岡本
9 月	気切チューブの予定外抜去・逸脱・迷入について	RST リーダー 集中治療科長 岡本
10 月	NPPV の理解と看護	急性・重症患者看護専門看護師 下尾
11 月	NPPV ハンズオン 呼吸理学療法	急性・重症患者看護専門看護師 下尾 理学療法士
12 月	小型人工呼吸器 Vivo45LS	臨床工学技士 小川 呼吸器疾患看護認定看護師 椎名
1 月	口腔ケア	歯科口腔外科医師
2 月	人工呼吸器ハンズオン（豚肺シミュレーション）	急性・重症患者看護専門看護師 下尾 RST リーダー 集中治療科長 岡本

呼吸療法管理マニュアル（年 1 回定期改訂）



呼吸ケアチーム加算 (2012/11 ～ 2025/01)



多職種連携で、これほど多くのスタッフを動員して、150 点はやすぎるのではないか？
過去 12 年間の加算の合計は ￥1,995,000 に過ぎなかった。

事実、病院の経営陣からは、収益にあまり貢献していないので停止してはどうかとの声も上がっている。医療安全にも寄与する活動なので、なんとか存続させていただくようお願いしているところである。

チーム名	点数	新設時期	区分番号
褥瘡対策チーム	500点	2006年	A236
早期離床リハビリテーションチーム	500点	2018年	A301
緩和ケアチーム	390点	2002年	A226-2
感染制御チーム	390点	2012年	A234-2
精神科リエゾンチーム	300点	2012年	A230-4
栄養サポートチーム	200点	2010年	A233-2
排尿ケアチーム	200点	2016年	B005-9
呼吸ケアチーム	150点	2010年	A242
認知症ケアチーム	150点	2016年	A247
抗菌薬適正使用チーム	100点	2017年	A234-2

COI 開示

筆頭発表者： 岡本 竜哉

① 役員・顧問職等の報酬	無	⑥ 研究費・助成金など	無
② 株式の利益（ 才以 株式の5%以上）	無	⑦ 奨学（奨励）寄付金など	無
③ 特許権使用料など	無	⑧ 寄附講座所属	無
④ 講演料など	無	⑨ その他（旅費・贈答品など）	無
⑤ 原稿料など	無		